

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	690400015
法人名	特定非営利活動法人 あすなろの会
事業所名	グループホーム あすなろ白旗
訪問調査日	平成 20年 8月 29日
評価確定日	平成 20年 10月 17日
評価機関名	株式会社 福祉工房

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	690400015		
法人名	特定非営利活動法人 あすなろの会		
事業所名	グループホーム あすなろ白旗		
所在地 (電話番号)	山形県米沢市大字三沢26113番地の65 (電話) 0238(21)5260		
評価機関名	株式会社 福祉工房		
所在地	宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘6-149		
訪問調査日	平成20年8月29日	評価確定日	平成20年10月17日

【情報提供票より】(平成20年8月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.6人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造	
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年8月21日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.5 歳	最低 76 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	米沢市立病院、あさひ歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

毎日、些細な楽しみやほっとする時間を持てるよう、利用者と職員が一緒に歌ったり、話をしたり、寄り添って過ごす時間を出来るだけ持とうとしており、常に温かみを感じられる事業所である。管理者と職員は更にケアの質を高めることを目指して理念の見直しから入浴時間の拡大、食事の取り方等々に関し改善の取り組みを行っている。前向きな意欲の感じられる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域の視点を入れた理念を現在検討中である。評価には今回は職員も参加し取り組んだが、評価の意義については職員への浸透は十分ではなかった。家族への報告は定期的に利用者の状況がわかるようにされるようになってきている。入浴については午前中だけであった入浴時間を午後まで拡大し、更に希望する時間に出来るだけ対応できるようになってきている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に関して職員に記入させ、管理者がまとめることにより、日頃のケアを見直すようにした。しかし職員に評価の意義を理解させる取り組みについては不足であった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3ヶ月に1回開催されており、家族代表、市の職員、地元の民生委員等に出席してもらっている。都度テーマ設定され、議事録をもとに職員にも内容を報告している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情相談窓口を設けていると共に、運営推進会議、家族会などでも意見を聞けるようにしている。今年は家族、利用者の意見もあり、あやめ園への外出を予定している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の町内会に参加し、地域活動に参加している。又、中学生の職場体験を受け入れることによる交流もしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業の目的、運営方針は明示されているが、「地域の中で」の視点が欠けている。	○	「地域の中でその人らしく暮らす」といった地域密着に関して職員と管理者と話し合い地域密着型事業所としての理念を上げることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	認知症の理解を深め、利用者とともに生活していくかを職員全員で話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の町内会に参加し、地域活動に参加している。又、中学生の職場体験を受け入れることによる交流もしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に関して職員に記入させ、管理者がまとめることにより、日頃のケアを見直すようにした。しかし職員に評価の意義を理解させる取り組みについては不足であった。	○	評価の意義に関し、更に職員と話し合いを進め、理解を深めてもらうようにすることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回開催されており、家族代表、市の職員、地域の民生委員等に出席してもらっている。都度テーマ設定され、議事録をもとに職員にも内容を報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員が2ヶ月に1度訪問して交流している。運営する上での疑問等は随時市の担当者に相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者の生活状況や受診の結果をまとめた近況報告を家族に郵送している。必要に応じて電話等で報告したり、来所時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けていると共に、運営推進会議、家族会などでも意見を聞けるようにしている。今年は家族、利用者の意見もあり、あやめ園への外出を予定している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	大幅な異動は極力避けてはいるが、実際にはこの1年で管理者、職員の異動があり、職員の確保が追いつかず、十分な対応が取れなかった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を中心に職員一人ひとりに必要な外部研修を検討し研修を受ける機会を作っている。又、法人内での勉強会も開いている。しかし、職員に関しては認知症に関する研修は一部の人がしか受けていない。	○	職員全員に認知症の基本に関する研修を事業所内でも、実施していくことが、より質の高いケアにつながると思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム地区ブロック会に参加し、地域の同業者と交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員には何もしないで過ごすことの辛さを実際に体験させ(黙視研修)、利用者の気持ちを理解できるようにさせている。この気持ちをベースに利用者に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用して、一人ひとりの性格や意向、希望、その人らしさを活かした介護計画を作成している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために、どうしたらよいか関係者と話し合い、分析し、優先課題を中心に介護計画を作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者、家族の意見を反映して3ヶ月に1回見直し、職員にも聞き取り、作成している。変化が生じた時には、その都度変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	/		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	利用者、家族と話し合い、入居以前からのかかりつけ 医を受診できるように、受診時には必要に応じ職員が 付き添うようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	本人、家族の希望に出来るだけ沿った終末期を送れる よう、リスクや考えられる状況を含めながら、利用者、家 族、主治医等で話し合いを行っている。明文化された 指針については作成されていない。	○	重度化に関しての指針を作成し、入居時にはそれをベー スに、利用者、家族と話し合いを持ち、確認し、職員に関 しても対応を明確にし、統一の取れた対応をすることが望 まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	「自分がされて嫌なことは何か？」ということを基本に利 用者の支援をしていくようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の暮らしを継続していけるように、職員の都合が 優先されていないか定期的に確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物、テーブル拭き、下げ膳、お茶汲みは職員と利用者が一緒に行っている。食事は職員と一緒にとはっていないが、9月以降一緒にとることを予定している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	以前は午前中を中心に入浴をしていたが、職員の意識の改善で午後まで時間を拡げるようになってきた。基本的には希望の時間に入浴できるようになってきている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力に応じた役割をお願いしており、一人ひとりの生活歴をベースに楽しみが持てるよう対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞きだすか、しぐさにより、馴染の場所や馴染の店などに外出できるよう対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	日中は玄関は開錠している。居室は常に鍵はかけてなく、自由に入出入りできる状態になっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を消防署の指導を受けながら行っている。夜間想定訓練や地域の人の協力を貰いながらの訓練も実施するよう検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事日誌をつけ栄養バランスに、及び水分の摂取に関しチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビをつけっぱなしにせず、ブラインドやカーテンで光を調節する等配慮している。又、季節の花を飾り季節感を出し、居心地の良い空間作りに配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やテレビ、馴染のタンス、ベット等を持ち込んだりしながらほっとする空間作りに配慮している。		